資料６－１

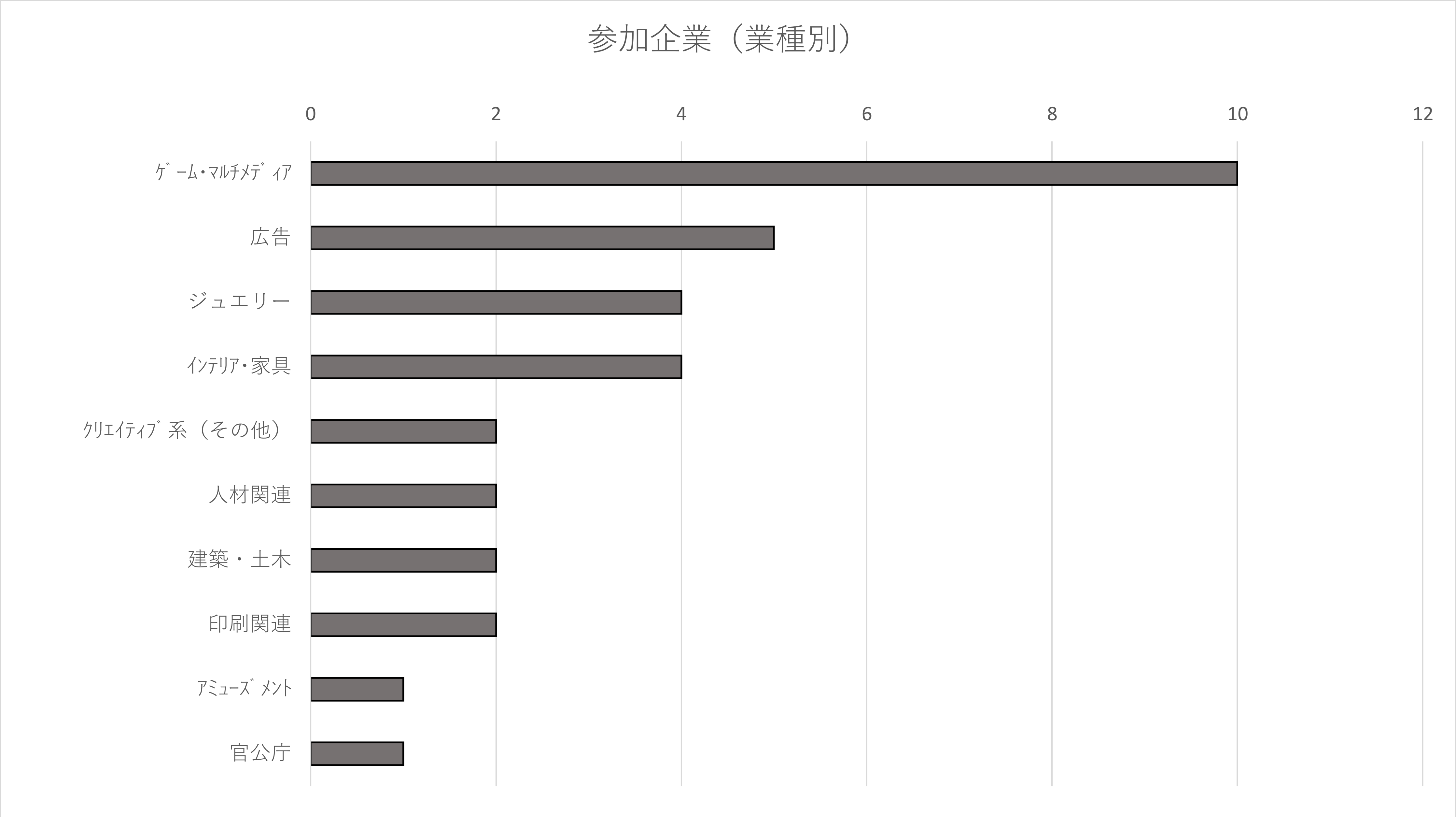
集計結果　博士課程設置に関するアンケート（企業向け）

アンケート回収数	19企業

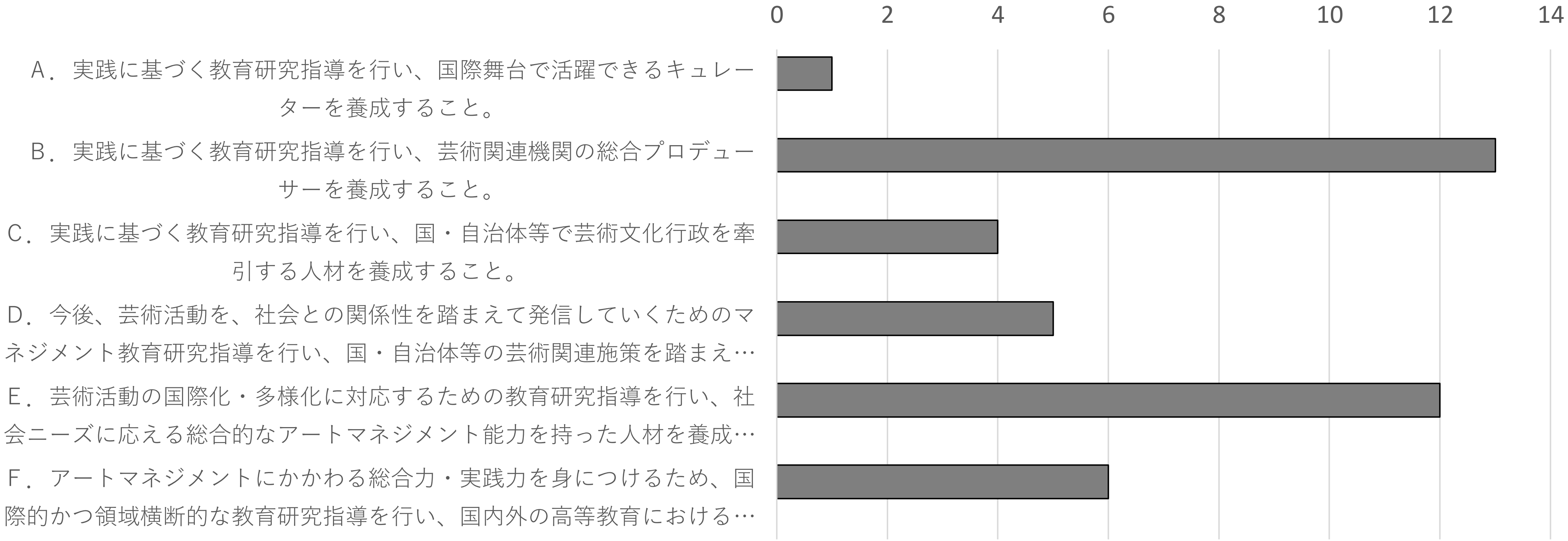
合同企業研究セミナー参加企業	33企業
回答率	57.6%

参加企業（順不同）

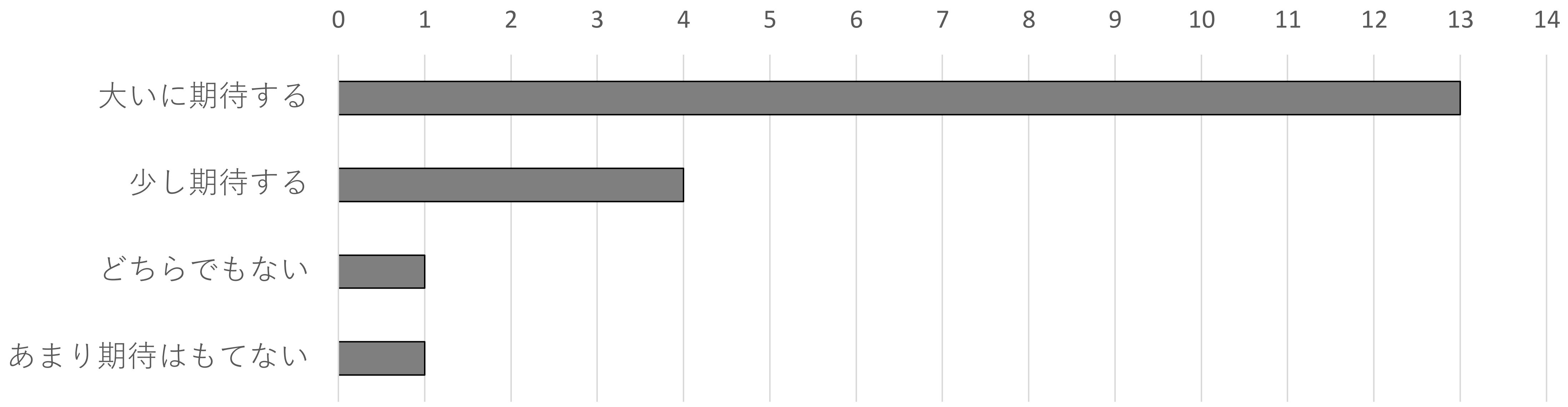
永大産業株式会社
株式会社アクア
株式会社エフ・ディ・シィ・プロダクツ
株式会社博展
株式会社エヌデザイン
株式会社ディーエヌ・エー
株式会社パソナ
株式会社乃村工藝社
株式会社ドリコム
株式会社ビビビット
株式会社スクウェア・エニックス
株式会DNP
オリエンタルランド株式会社
株式会社イトーキ
株式会社読売広告社
共同印刷株式会社
株式会社サイバーエージェント
株式会社TASAKI
株式会社フォーク
株式会社コロプラ
株式会社セガホールディングス
株式会社電通アドキア
ｺﾅﾐｸﾞﾙｰﾌﾟ（ｺﾅﾐﾋﾞｼﾞﾈｽｴｷｽﾊﾟｰﾄ）



Q1 国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 博士後期課程の設置に関して、積極的に取り組むべきだと思うこと。



Q2 国際芸術創造研究科　アートプロデュース専攻 博士後期課程の人材養成について、今後の芸術活動やグローバルな展開、社会に対する還元等において期待するか。



Q3 国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻　博士後期課程における人材養成についてのご意見、ご要望。

・今まで、アートプロデュース、キュレーション、マネジメントについて専門的に学ぶ専攻が多くなかった為、芸術の最高学府である東京芸術大学が、このような専攻を開設されることを嬉しく思います。又、卒業生にも大変興味を持っております。薩摩先生など、面白い講義をして下さる方が、多く関わっていかれることを期待しております。

・パソナグループでは芸術による地方創生事業を行い、芸大OGもプロデュースで活躍しています。インターンシップ等で人材養成の協力を行います。

・日本では優れた技術・作品でも総合プロデュースや、発進力が伴わず、十分な評価が得られていないものが多いのではないかと思います。よって、非常に重要で貴重な取り組みだと期待しております。

・B to Bにおける作り手側は、大にして人材が”コカツ”していると思われる。また、エンタテインメントに関わるアーティスト、デザイナーは雇用形態（主に収入面）も不安定なため、そういった事もマネジメントできる領域があってもよいと思われる。

・弊社のゲームプロデューサー人材が美大卒の方が多く活躍していただいており、アートプロデュース教育を受けていた方の活躍を期待しております。

資料６－２

Q. 東京藝術大学の新研究科及び専攻設置についておたずねします。

① 東京藝術大学では、平成 30 年度より「国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 博士後期課程」の設置準備を進めています。「国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻」については、本アンケート最終ページ参考資料をご参照ください。この博士後期課程設置に関して、今後どのような点を積極的に取り組むべきだと思いますか。（3つ以内で回答して下さい。）

A. 実践に基づく教育研究指導を行い、国際舞台で活躍できるキュレーターを養成すること。
B. 実践に基づく教育研究指導を行い、芸術関連機関の総合プロデューサーを養成すること。
C. 実践に基づく教育研究指導を行い、国・自治体等で芸術文化行政を牽引する人材を養成すること。
D. 今後、芸術活動を、社会との関係性を踏まえて発信していくためのマネジメント教育研究指導を行い、国・自治体等の芸術関連施策を踏まえた実践と研究を行える専門的人材を養成すること。
E. 芸術活動の国際化・多様化に対応するための教育研究指導を行い、社会ニーズに応える総合的なアートマネジメント能力を持った人材を養成すること。
F. アートマネジメントにかかわる総合力・実践力を身につけるため、国際的かつ領域横断的な教育研究指導を行い、国内外の高等教育における芸術文化の教育研究に関わる人材を育成すること。
G. その他（具体的に:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

② 「国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻 博士後期課程」の人材養成について、今後の芸術活動やグローバルな展開、社会に対する還元等において期待しますか。（該当する番号に○をつけてください）

1．大いに期待する　　2．少し期待する　　3．どちらでもない　　4．あまり期待はもてない
5．その他（具体的に：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

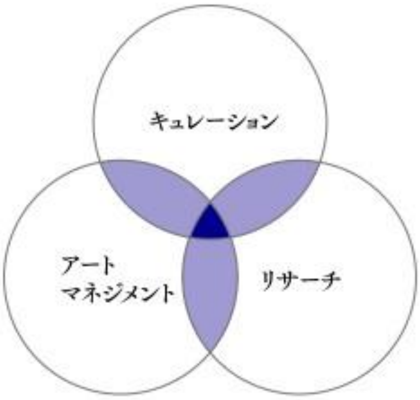
③ 「国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻 博士後期課程」における人材養成について、何かご意見・ご要望があれば記入願います。

参考資料：東京藝術大学大学院　国際芸術創造研究科（GA）概要

GA

Tokyo University of the Arts
Graduate School of Global Arts,
Department of Arts Studies and Curatorial Practices

東京藝術大学大学院
国際芸術創造研究科
アートプロデュース専攻



グローバル化で世界が近くなった今日、人びとは居場所とコミュニティを求めて、地球上を彷徨っています。資本主義がさまざまな行き詰まりを見せる先進国がある一方、高度経済成長のただなかにある国々もあります。そうした世界との交流を通じて、変幻する現在の、多様な価値観に新たな文脈を提示すべく、芸術文化活動を構想・実践し、かつ理論化できる人材を育むことが本研究科の目的です。
2016 年春に新設されたアートプロデュース専攻では、次の 3 つの角度から芸術と社会の関係にアプローチします。

アートマネジメントは、芸術の作り手と受け手をつなぐことを目的とし、公演や作品、プロジェクトなどの企画・製作・運営、資金や支援の獲得、利害関係者との連携・調整などの役割を担う活動です。美術・音楽・映像など、さまざまな領域のアートマネジメントの在り方を、その理論や歴史を踏まえ、各種事業の企画・運営といった現場における実践を通じて、自治体や企業、財団、メディア、NPO、芸術家、そして市民との関係をどのように構築するのかを学修します。また、時代の変化への対応を探り、より創造的な社会の構築に資するような、芸術と社会の新たな関係構築をめざします。

キュレーションは、主として展覧会などにおいて、テーマを考え、コンセプトを構築し、それにもとづいたアーティスト・作品・展示空間などを選択して、その展覧会の哲学が視覚的に伝わる演出や運営を行う活動です。また、次代に向けて成果を残すためのカタログの作成など、さまざまな言語的情報発信も活動の一環です。本専攻では、芸術やキュレーションに関わる最新の批評理論や実践を学びながら、さまざまな規模で、場の文脈を踏まえた展示企画を行い、理論と実践を学修します。また、キュレーションを行うにあたって必要な知識である人文学や社会科学、さらには自然科学などの多様な分野についても幅広く学びます。

リサーチの角度からは、社会学・メディア文化研究・文化経済学・文化政策学などの社会科学的な視点から、芸術と社会の関係を分析します。特に、近年の理論的な発展を踏まえつつ、芸術と社会の関係を、文献調査および具体的なフィールドワークを通じて考察します。さらに、メディアを中心とする情報テクノロジーの発達によって生まれつつある新しい芸術文化領域についても研究の対象とします。